

高津第一地区

社協ニュース

第52号

発行日 平成29年10月1日

発行人 高津第一地区社会福祉協議会

会長 川 辺 清 三

川崎市高津区溝口1-6-10 てくのかわさき3F

TEL 044-812-1879 FAX 044-612-3548



久地神社 秋の例大祭

西高津中学校創立60周年 前 進

～重ねた歴史のその先へ～

学校長 上 杉 岳 啓

日頃より、高津第一地区社会福祉協議会の皆様には、本校の教育活動へのご理解とお力添えを賜り、感謝申し上げます。

今年度、本校は創立 60 周年を迎えました。昭和 32 年 4 月 1 日に高津中学校に併設の形で開校し、同年 7 月 20 日に《芳しき梅の名どころ久地の地》に移転してから今年で 60 年、人生に例えると還暦を迎えました。

開校当時の本校は田畑に囲まれ、移転直後の不整地の校庭では体育的活動はままならなかったと聞いています。それから 60 年。田畑は住宅地や工場地へと変貌し、いまでは開校時の面影は見ることではできません。

また、人口減少が社会問題化する日本において、唯一人口増加を続ける川崎市を象徴するかのよう



に、ここ数年生徒数は急増し、今では 1000 名越えを視野に入れています。

しかしながら、急速な変貌を遂げる周囲の状況に対し、色褪せず変わることなく 60 年の伝統を引き継いでいるものがあります。それは学校教育目標と校歌《よき生徒たれ》です。



学校教育目標には、知・徳・体に国際・人権の項目が記され、現在の教育に求められているもの全てが凝縮されており、開校当時に起草された方々の先見性に驚愕するばかりです。

この学校教育目標は、毎日目にすることができるよう各教室に掲げられると共に、生徒手帳に私たちの目標として記載され、校歌の歌詞《ひたすらによき生徒たれと励まし合い勤しむ我ら》にもあるよう、生徒は元気に明るく真摯に努力する毎日を送っています。

今後この伝統を確実に継承し、《光輝ある歴史》を作るよう努力してまいりますので、今後共ご支援をよろしくお願いいたします。

ほっとする町、久地西町自治会

自治会長 林 孝行



久地西町自治会は、JR 久地駅の南西側久地 4 丁目に位置する約 470 戸の町会です。

駅近の利便性と隣接の緑ヶ丘霊園の自然を身近に感じられるとても暮らしやすい町です。そういった恵まれた環境に加え、私たちは、「ほっとする町、久地西町」を合言葉に、誰もが安全で安心できる町会でありたいと活動しています。

具体的には、子ども会の活動を町会あげてバックアップしています。元気な子どもの姿がある町は明るくなります。町会と子ども会が協力して、町内清掃や親子運動会、餅つき大会等の行事を行うにつれ、大人にも子どもにも住んでいる人の顔がわかり、自然と挨拶や声かけが生まれるようになりました。

もう一つは、手入れの行き届いた綺麗な町には犯罪が起きにくいということで、お花好きのメンバーのフローラル会を中心に町内の美化に力を入れ一年中花咲く町づくりに力を入れています。

三年前から、荒地地にコミュニティガーデンを作り、アジサイ 28 株の記念植樹をするなど住民の努力で、草に覆われていた場所がアジサイの山へと見事に変貌し、年々アジサイの季節が待ち遠しい素晴らしい環境を作り上げました。

「自主防災」という言葉は日常的に聞かれますが、私たちは東日本大震災前から非常時を想定し町内の 4 か所に防災倉庫を設置し、毎年少しずつ災害用の備品を整えてきました。しかし、災害時に一番大切なことは、日ごろの住民間のコミュニティーの深化と思いやりの意識向上です。

何かが起きた時に助け合える町、それが「ほっとする町」であり、気持ちが「熱い(Hotな町)」「ラブ西町」を目指して今後も自治会あげて頑張ります。

「白馬の奇跡」は地域の絆から

平成26年3月22日午後10時 長野県神城断層地震 震度5強 全壊41戸にもかわらず、死者0の奇跡。その奇跡をもたらした住民の絆を学ぶために、高津第一民児協の県外研修が行われた。

7月24日(月)、白馬村役場会議室で白馬村民児協(篠崎茂樹会長)との交流会が行われた。

その奇跡を生み出した絆を学び、都市型民児協(高津区平均520世帯/民生委員1人)地方型民児協(200世帯/民生委員1人)との活動の違いを学び民生委員活動をより深めることを目的とした。

忌憚のない意見交換が出来た。特に篠崎会長の地震体験談は興味深く、震災時の共助の考え方や「地域の住民同志の顔が全て分かる関係にある」との話は大いに参考になった。こうして交流会は、お互いの活動を理解し、実のある研修となった。



白馬村民児協・高津区第一民児協の方々

100周年を迎えた全国民生委員児童委員大会

5月23日、ミューザかわさきで川崎大会が行なわれ、多数の民生委員・児童委員が参加した。全国大会は、7月9日・10日の2日間、東京ビッグサイトなどで行われた。記念式典には全国から一万人が参加し、天皇皇后両陛下のご臨席を得て盛大に行われた。

編集後記

各地に記録的短時間大雨情報や、地震や竜巻の報道がされる中、第52号社協ニュースを発行すべく編集しました。今後は活動報告のみならず、催しの予定もお知らせしていく所存です。<S>

編集委員 小竹 正美、佐野 せつ子、本多 栄治、望月 正一、横山 滋、矢島 真理子、若林 豊茂美

高津第一地区

社協ニュース

第52号

発行日 平成29年10月1日

発行人 高津第一地区社会福祉協議会

会長 川 辺 清 三

川崎市高津区溝口1-6-10 てくのかわさき3F

TEL 044-812-1879 FAX 044-612-3548



久地神社 秋の例大祭

西高津中学校創立60周年 前進

～重ねた歴史のその先へ～

学校長 上 杉 岳 啓

日頃より、高津第一地区社会福祉協議会の皆様には、本校の教育活動へのご理解とお力添えを賜り、感謝申し上げます。

今年度、本校は創立 60 周年を迎えました。昭和 32 年 4 月 1 日に高津中学校に併設の形で開校し、同年 7 月 20 日に《芳しき梅の名どころ久地の地》に移転してから今年で 60 年、人生に例えると還暦を迎えました。

開校当時の本校は田畑に囲まれ、移転直後の不整地の校庭では体育的活動はままならなかったと聞いています。それから 60 年。田畑は住宅地や工場地へと変貌し、いまでは開校時の面影は見ることではできません。

また、人口減少が社会問題化する日本において、唯一人口増加を続ける川崎市を象徴するかのよう

に、ここ数年生徒数は急増し、今では 1000 名越えを視野に入れています。

しかしながら、急速な変貌を遂げる周囲の状況に対し、色褪せず変わることなく 60 年の伝統を引き継いでいるものがあります。それは学校教育目標と校歌《よき生徒たれ》です。



学校教育目標には、知・徳・体に国際・人権の項目が記され、現在の教育に求められているものが凝縮されており、開校時に起草された方々の先見性に驚愕するばかりです。

この学校教育目標は、毎日目にすることができるよう各教室に掲げられると共に、生徒手帳に私たちの自標として記載され、校歌の歌詞《ひたすらによき生徒たれと励まし合い勤しむ我ら》にもあるよう、生徒は元気に明るく真摯に努力する毎日を送っています。

今後もこの伝統を確実に継承し、《光輝ある歴史》を作るよう努力してまいりますので、今後共ご支援をよろしくお願いいたします。



ほっとする町、久地西町自治会

自治会長 林 孝行



久地西町自治会は、JR 久地駅の南西側久地 4 丁目に位置する約 470 戸の町会です。

駅近の利便性と隣接の緑ヶ丘霊園の自然を身近に感じられるとても暮らしやすい町です。そういった恵まれた環境に加え、私たちは、「ほっとする町、久地西町」を合言葉に、誰もが安全で安心できる町会でありたいと活動しています。

具体的には、子ども会の活動を町会あげてバックアップしています。元気な子どもの姿がある町は明るくなります。町会と子ども会が協力して、町内清掃や親子運動会、餅つき大会等の行事を行うにつれ、大人にも子どもにも住んでいる人の顔がわかり、自然と挨拶や声かけが生まれるようになりました。

もう一つは、手入れの行き届いた綺麗な町には犯罪が起きにくいということで、お花好きのメンバーのフローラル会を中心に町内の美化に力を入れ一年中花咲く町づくりに力を入れています。

三年前から、荒れ地にコミュニティガーデンを作り、アジサイ 28 株の記念植樹をするなど住民の努力で、草に覆われていた場所がアジサイの山へと見事に変貌し、年々アジサイの季節が待ち遠しい素晴らしい環境を作り上げました。

「自主防災」という言葉は日常的に聞かれますが、私たちは東日本大震災前から非常時を想定し町内の 4 か所に防災倉庫を設置し、毎年少しずつ災害用の備品を整えてきました。しかし、災害時に一番大切なことは、日ごろの住民間のコミュニティーの深化と思いやりの意識向上です。

何かが起きた時に助け合える町、それが「ほっとする町」であり、気持ち「熱い (Hot な) 町」「ラブ西町」を目指して今後も自治会あげて頑張ります。

「白馬の奇跡」は地域の絆から

平成26年3月22日午後10時 長野県神城断層地震 震度5強 全壊41戸にもかかわらず、死者0の奇跡。その奇跡をもたらした住民の絆を学ぶために、高津第一民児協の県外研修が行われた。

7月24日(月)、白馬村役場会議室で白馬村民児協(篠崎茂樹会長)との交流会が行われた。

その奇跡を生み出した絆を学び、都市型民児協(高津区平均520世帯/民生委員1人)地方型民児協(200世帯/民生委員1人)との活動の違いを学び民生委員活動をより深めることを目的とした。

忌憚のない意見交換が出来た。特に篠崎会長の地震体験談は興味深く、震災時の共助の考え方や「地域の住民同志の顔が全て分かる関係にある」との話は大いに参考になった。こうして交流会は、お互いの活動を理解し、実のある研修となった。



白馬村民児協・高津区第一民児協の方々

100周年を迎えた全国民生委員児童委員大会

5月23日、ミューザかわさきで川崎大会が行なわれ、多数の民生委員・児童委員が参加した。全国大会は、7月9日・10日の2日間、東京ビッグサイトなどで行われた。記念式典には全国から一万人が参加し、天皇皇后両陛下のご臨席を得て盛大に行われた。

編集後記

各地に記録的短時間大雨情報や、地震や竜巻の報道がされる中、第52号社協ニュースを発行すべく編集しました。今後は活動報告のみならず、催しの手配もお知らせしていく所存です。<S>

編集委員 小竹 正美、佐野 せつ子、本多 栄治、望月 正一、横山 滋、矢島 真理子、若林 豊茂美